

事業コード	04010207	政策コード	04	政策名	秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略					
事業名	選ばれる観光拠点づくり総合対策事業	施策コード	01	施策名	地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化					
部局名	観光文化スポー	課室名	観光戦略課	指標コード	02	施策目標(指標)名	観光客のニーズに対応した受入態勢の整備と、観光人材・事業者の育成			
		班名	戦略企画		(tel)	1462	担当課長名	益子 和秀	担当者名	小倉 晃輔

評価対象事業(計画)の内容

事業年度 平成30年度 ~ 平成33年度

1. 事業立案の背景(施策目標の達成のために今なぜこの事業が必要なのか)
 本県への訪問意欲を喚起する際立ったコンテンツの造成や、旅の満足度を高める高質な受け入れ環境設備を進めることにより、観光客に「選ばれる」観光拠点を創出・形成し、国内外からの誘客拡大を図る。

3. 事業目的(どのような状態にしたいのか)
 観光客の本県への訪問動機を高め、旅の満足度を向上させることにより、誘客の拡大を図る。

(重点施策推進方針との関係) 重点事業として要望 その他事業として要望

2. 住民ニーズの状況
 ニーズを把握した対象
 受益者 一般県民 (時期: H29 年 10 月)
 ニーズの把握の方法
 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット
 その他の手法 (具体的に)
 ニーズの具体的内容

4. 目的達成のための方法

事業の実施主体 県

事業の対象者・団体 民間事業者

達成のための手段

誘客コンテンツの造成、観光施設・宿泊施設の整備を行う事業者の取組みを支援する。(補助金交付等)

本県への誘客を拡大するためには、秋田犬や発酵食文化など、本県ならではの誘客コンテンツを拡大するとともに、拠点的な宿泊施設を整備する必要がある。

比較した代替手段及び選択した手段の有効性

県が直接コンテンツの造成や観光施設・宿泊施設の整備を行うことについては、事業者を育成し、持続的な誘客体制を構築する観点から好ましくない。

把握していない場合の理由及び今後の方針

理由

今後の方針

5. 事業の全体計画及び財源 単位(千円)

順位	事業内訳	左の説明	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	全体(最終)計画
01	際立つコンテンツ創出支援事業	秋田犬や里山サイクリングなどによる誘客や、「あきた発酵ツーリズム」等と連動し、魅力が際立つ多彩なコンテンツの造成を促すため、民間事業者に対し施設整備等を支援。	12,000	12,000	12,000	12,000			48,000
02	高質な受入環境整備促進事業	観光客に「また来たい」と思わせる高質な受入環境の整備を促進するため、金融機関や市町村と連携しながら、民間事業者が行う新たな誘客プロジェクト立ち上げを支援する。	85,600	85,600	85,600	85,600			342,400
財源内訳		左の説明	97,600	97,600	97,600	97,600			390,400
国庫補助金		地域経済循環創造事業交付金、東北観光復興対策交付金	37,300						37,300
県債									
その他の									
一般財源			60,300	97,600	97,600	97,600			353,100

6. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果 魅力ある観光地として、秋田のファンを増やすことでリピーターの増加と口コミによる新たな顧客獲得が期待される。

指標	指標名	延べ宿泊者数（千人）	指標の種類						
	指標式	県内の宿泊施設における宿泊者の延べ人数を指標とする。	成果指標 業績指標						
	年度別の目標値（見込まれる成果による指標）								
	指標	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	最終年度
	目標a			3,500	3,600	3,700	3,800		
	実績b	3,400	データ等の出典						
	東北 全国		観光庁「宿泊旅行統計調査」						
把握する時期 当該年度中 月 翌年度 07月 翌々年度 月									

指標	指標名	外国人延べ宿泊者数（暦年）	指標の種類						
	指標式	県内の宿泊施設における外国人宿泊者の延べ人数を指標とする。	成果指標 業績指標						
	年度別の目標値（見込まれる成果による指標）								
	指標	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	最終年度
	目標a			125,000	150,000	175,000	200,000		
	実績b	66,950	データ等の出典						
	東北 全国		観光庁「宿泊旅行統計調査」						
把握する時期 当該年度中 月 翌年度 07月 翌々年度 月									

指標を設定することができない場合の効果の把握方法
 指標を設定することが出来ない理由

見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

事業の必要性

現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性
 誘客コンテンツが不足しているとともに、拠点的な観光施設や宿泊施設も不足している。

住民ニーズに照らした事業の必要性
 県民から、誘客の拡大を求める意見は多い。

事業の県関与の必要性
 法令・条例上の義務 内部管理事務 県でなければ実施できないもの
 民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの

持続的に誘客体制を維持するという観点から、事業者を育成することが望ましい。

政策評価委員会意見

重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定

重点事業 その他